保育者養成校での ICT 保育・教育活用技能の養成
－実践を通した“気づき”の教育効果－

Training ICT Childcare / Education Utilization Skills at Childcare Worker Training School
-Educational Effect of “Awareness” Through Practice-

神谷 勇毅[*1]
Yuki KAMIYA[*1]
[*1] 鈴鹿大学短期大学部
[*1]Suzuka Junior College
Email: y-kamiya@suzuka.ac.jp

あらまし：小学校においてもプログラミング教育，プログラミング的思考を養う教育の展開が求められるようになった．2003 年に高等学校で教科「情報」の設置から 17 年の歳月を経て，小学校にまで及んだ教育においての情報であるが，筆者は，小学校の下の世代までこの流れが波及する可能性を考える．保育者養成校でも，幼稚園教諭免許取得に情報学は必修である．教員免許状を修めるには，教育方法と技術（情報機器の活用を含む）など，教育方法に関わる科目の履修も求められる．しかし，幼児教育の現場では，この情報社会の中にあって，未だアナログ的要素が強く残る．本稿は，筆者が保育者養成校で取り組む，幼児教育現場での ICT 保育･教育活用の教育展開の中で，実践を通した気づきの教育効果について論じる．
キーワード：保育者養成校，教育方法と技術，幼児教育，ICT 保育・教育活用，教育効果

1. はじめに

現在，教育に対する ICT 活用は当然ともなってきている．しかし幼児教育に限定すると，ICT を保育，教育に活用する動きは小学校以上のそれと比較しても活発では無い．しかし，保育者養成校で学ぶ学生は，幼稚園教諭免許を修めるために，情報学が必修とされる．免許の取得に必修とされながら，現場ではその活用が見られないというこのギャップに疑問を感じ，筆者はこれまで保育者養成校における ICT 保育，教育活用技能を教育する授業展開[1)]を長年行ってきた．本稿は，筆者が行う保育者養成校での ICT 教育と実践を通した気付きの学びついて報告する．

2. 保育における ICT 保育・教育活用

幼児教育において，保育用務，園務面での ICT 活用は，保護者への一斉連絡，園バス位置情報など様々見られる．それは，多忙を極める保育者の業務量低減に貢献している．しかし，保育，教育面の活用に目を向けると，その事例は非常に少ない．つまり，事務業務については ICT 活用の動きが見られるが，幼児に対し活用するという動きに中々至っていない実情がある．しかし，近年の保幼小連携，接続の動き，小学校でのプログラミング教育の開始を考えると，現在は保育用務，園務面での活用が多く見られる幼児教育においての ICT 活用が，やがて ICT 保育，教育活用を向いても何ら不思議では無いと考える．実際に，わが国においても幼児教育でタブレットなどを使った保育の実践を始める園も見られる[2)]．この時代の到来を考え，筆者は，保育者養成校で取り扱う情報学も，ICT 保育，教育活用に対応できる技能の養成が必要だと考える．

3. 保育者養成校での筆者の取り組み

筆者は，保育者養成校で担当する情報学の授業において ICT 保育，教育活用の技能養成を目的とし「電子紙しばい（図 1 参照）」を主題とする取り組みを行っている．この目的は，ICT 教材の制作技能と活用技能とを並行的に教育するところにある．合わせて，日常的な保育で行われる読み聞かせで使用する絵本，紙芝居を電子化する事で，ICT 保育，教育活用のハードルを下げられる事に期待した．これは，幼児教育と ICT 保育，教育活用の接点が未だ希薄であり，日常的な教具を ICT 教材に置き換える事で，保育者も戸惑い無く活用が出来るのでは無いかと考えた結果である．教材制作には専用のソフトウェアも見られるが，PowerPoint を採用した．PowerPoint は，学生らも使用経験があるという点を重視すると共に，一般的なソフトウェアを活用する ICT 教材制作技能の養成こそ，保育者養成校として取り組むべき課題

図 1　学生の電子紙しばい作品の一例

の 1 つと考えたためである．学生らも PowerPoint の使用経験はあるが，その殆どが発表資料スライドであり，PowerPoint での紙芝居制作経験を持つ者はこれまでに居ない．しかし， PowerPoint に関する基礎知識は学習済みのため，基礎的な取り扱いについては確認程度で済み，発展，応用機能に特化した内容で授業進行が可能である．電子紙しばいの特徴の 1 つは，アニメーションである．既存の絵本，紙芝居では実現が不可能な事が, ICT 教材では可能となる．学生らも，この部分に ICT 教材の魅力を感じているようであった．問題は，制作過程での設計である．どの部分をどのように動かし表現するか，また，望むアニメーションの全てが PowerPoint に搭載されているとは限らず，複数のアニメーションを組み合わせて目的とする動きを引き出す工夫も必要になる．

制作にあたっては「絵」が必要になるが，その絵も自身で描きスキャナで取り込む，折り紙を折りスキャナで取り込む，版権フリーイラストを使うといった各手法，質感を求めるために，布や落ち葉，紙などをスキャナで取り込むなどの工夫は，授業進行過程で学生らが独自に創造するよう促しを行う．また，使用する絵も，どうしても学生は「1 つの絵」としてシーンをまとめてしまう傾向が強いが，電子紙しばいの場合，各パーツ単位での描画が必要であり，この部分を理解させるための授業法の考察が一層必要である．

4.　実践を通した“気づき”の教育効果

課題として模擬保育（電子紙しばいを使った読み聞かせ）を課すが，幼児に対しての実践が不可欠と考える．2017 年度より勤務校近隣の現場園の協力を仰ぎ，幼児を対象とした実践も始めた．現場も，読み聞かせは頻繁に行うが，電子紙しばいの読み聞かせはこれまでに経験が無く，現在の保育環境とどのように融合出来るかと強い興味を示した．出かけるにあたって，校内で準備，練習を行う．学生らは，電子紙しばいの特性は，授業での制作過程を通じて理解すると同時に，これまでの読み聞かせ経験だけで補う事が出来ない技能が必要だという事に気付いている．現場園での実践を通し，終了後の意見交換で,「プロジェクタ，ノートパソコンを用意し投影したが，とっさの時に保育者の動きが制限されるため幼児教育でこの環境は不向きだと考える.」「機器から多数のケーブルが出ているため，子どもへの配慮が必要.」「アニメーションに対する反応は，期待したものでは無かった. どこかに問題があるはず.」「通常の読み聞かせでは見られない反応もあったが，十分に教材を使いこなせていない.」という気付きの意見を多数聞く事が出来た．気付きについては，菊地らが「活用の積み重ね」の重要性 [3] に言及しており，それは本研究においても同様と考える．これら気付きの意見は，現場で実践をして初めて気が付くものであり，学内のみの学習環境では，決して気付く事は無かったと考える．特に投影環境について，PowerPoint を使用する場合，パソコンとプロジェクタで投影をするという事に安易に結び付けがちであり，大人の目線ではそれが当然と考えるが，保育者を目指す学生らの視点では，実践を通して保育者のとっさの動きが制限される，ケーブルが多く子どもに配慮が必要など，ICT 保育，教育環境ならではの気付き効果も見る事が出来た．

5.　まとめ

本稿は，筆者が保育者養成校で取り組む情報学，ICT 保育, 教育活用をテーマとした実践を報告した．幼児教育での ICT の保育，教育活用については未だ賛否両論ある [4]．しかし，小学校以上の現場でこれほどまで使われるようになった ICT の波が小学校で止まるとは考えられない．筆者は，幼児教育独自の ICT 保育，教育活用の方策が重要と考え，保育者養成に取り組んできた．学内での教育を通した保育者の ICT 保育，教育活用技能に現場での実践を加える事で，実践を通した気付きによる高い学習効果を見る事が出来た．その気付きも，教員から何かしら示唆されるものでは無く, 学生らがそれぞれの目線で，自然に気付きが生まれた．教員から示唆された気付きと比較しても，自身で自然のうちに気付く事の学習効果は非常に高いと評価する．幸いにして，長年の取り組みから現場園での協力を頂けるようになってきた．その一方で，2019 年度以降，残念ながら COVID-19 の影響から，現場での十分な実践機会が得られない状況が続いている．1 日も早い好転を願って止まない．

参考文献

(1) 神谷勇毅:“情報学演習授業への協調学習導入と教育効果－電子紙しばい制作を例にした保育者 ICT 技能養成－”，日本教育工学会研究報告集,JSET17-3,pp.145-150 （2017）
(2) ベネッセ教育総合研究所:“幼稚園での ICT 活用は学びの効率化よりも動機付け 学校法人信学会” https://berd.benesse.jp/special/manabi/manabi_2.php （最終アクセス 2020.05.11）
(3) 菊地達夫, 高橋さおり:“保育者・小学校教員養成課程における連携授業による新聞活用の実践と効果”, 北翔大学北方圏学術情報センター年俸,vol.7, pp.85-90（2015）
(4) 丸山幸三:“幼児教育における ICT 活用について－ワークショップ実践から見えてきた情報教育のあり方”, 豊岡短期大学論集, No.14, pp.103-112（2017）